船舶事故調査報告書

平成３１年３月２０日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	平成３０年７月３１日　０８時５５分ごろ
発生場所	山形県鶴岡市加茂（かも）港北方沖 荒埼灯台から真方位００４°２．５海里付近 （概位　北緯３８°４８．２′　東経１３９°４３．６′）
事故の概要	プレジャーボートRYU Internationalは、漂泊中、浸水した。
事故調査の経過	平成３０年８月１日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボートRYU International、５トン未満（長さ６．２７ｍ） ２１１－８１７９山形、有限会社RYU international
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船体後部に浸水（全損）
気象・海象	気象：天気　晴れ、風向　北西、風力　２、視界　良好 海象：波高　約０．３ｍ、海水温度　約２６℃
事故の経過	本船は、船長が１人で乗り組み、知人（以下「同乗者」という。）３人を乗せ、加茂港を出港し、釣り場を移動しながら釣りを行った後、同港北方沖の釣り場で船外機を停止して漂泊し、釣りを行っていた。 船長は、操舵室にいたところ、後部甲板で釣りをしていた同乗者の１人から同甲板に海水の滞留が認められるとの連絡を受け、状況を確認し、ふだんと比べ滞留量が多く、浸水していると思った。 船長は、浸水量が増加する前に加茂港へ帰港しようと思い、船外機を始動しようとしたが、始動できずにいるうちに浸水量が急激に増加して船体後部が水没状態となり、沈没の危険を感じて同乗者３人と共に救命胴衣を着用して海中に飛び込んだ。 本船は、船長が本事故の発生を１１８番通報して救助を要請し、乗船者４人全員が海上保安庁の依頼により来援した山形県水難救済会加茂救難所所属の漁船に救助され、同漁船にえい航されて加茂港に入港し、陸揚げされた。 本船は、他のプレジャーボートと比べ、船外機の重みで船尾トリムが大きく、ふだんからトランサム（船体最後部の横強力材）上部を波が洗っていた。 本船は、空所に通じる‘右舷船尾部の操舵用ケーブル等の貫通孔’（以下「船尾部の貫通孔」という。）にゴム製ブッシュが取り付けられ、船尾部の貫通孔の水密が保たれるようになっていたが、加茂港で

	陸揚げされた際、船尾部の貫通孔から海水が漏れ出した。
分析	本船は、漂泊中、船尾部の貫通孔から空所に海水が浸入したことから、船尾トリムが増大して船体後部に浸水したものと考えられる。 船尾部の貫通孔は、ゴム製ブッシュが劣化して破損していた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が、漂泊中、船尾部の貫通孔から空所に海水が浸入したため、船尾トリムが増大して船体後部に浸水したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ゴム製ブッシュは、長期間使用すれば、劣化して破損するおそれがあるので、適宜点検を行い、必要に応じて交換すること。